

中部地区 公民館だより

第141号

令和4年11月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

皆で歩くと楽しいね

秋晴れの10月15日(土)、地域の宝さがしウォークラリーが行われました。中部地区在住の方であれば老若男女問わず参加可能で、自分の住む地域をもっと知り、地域の方々と親睦を深めることを目的とした事業です。中部地区を4つのブロックに分けて実施しており、今年度は西部7地区(軽井沢・八幡丁・西山・荒町・仲丁・湯町・新湯)を対象にウォークラリーを楽しみました。5か所のチェックポイントを回り、クイズに答えたり、その場所(物)の説明を聞いたりしました。「初めて行ったところもあり、説明がわかりやすくとても勉強になった」との声が多く、チェックポイント以外にも「地域の宝」をたくさん発見できました。途中に設けられた休憩所では、地元の方の明るい笑顔とお菓子をいただき、パワーアップしてゴールを目指しました。家族団らんと、世代間の交流が図れた良い時間となりました。

ご協力いただいた多くのスタッフの皆様、大変ありがとうございました。



「地域の宝」は人それぞれ



写真撮影時マスクを外しています

フライングディスクと輪投げ大会



9月29日(木)、生涯学習センターにてフライングディスクと輪投げ大会を開催しました。輪投げは、ほとんどの方が経験者で、みなさん着実に点数をかさねていき、優勝した方は379点でした。

フライングディスクは、ディスタンス、アキュラシー、ディスクゲッターの3種類の競技を行い、種類ごとに点数を競いあいました。

どの競技も1投ごとに歓声があがり、短い時間でしたが楽しい時間を過ごすことができました。

参加者の皆さんからは「年に1回だけでなくもっとやりたい」「久しぶりに体を動かせた～」という声が聞こえてきました。



街歩きウォーキング③



足湯、公衆浴場めぐり



今年度3回目のウォーキングは、10月7日(金)中部地区公民館運営協議会の牧野義文会長にガイドを務めていただき、『足湯、公衆浴場めぐり』と題し、鶴の休石(鶴脛温泉源泉地)など4カ所の足湯と、下大湯など3カ所の公衆浴場を小雨ではありましたが、予定通りのコースを巡りました。また、疲労回復や認知症予防などの足湯の効能について説明していただきました。

「雨の日も良い、楽しいひと時でした」、「楽しいウォーキングでした。天候雨で残念」などの感想をいただきました。



革細工教室



(左)コインケース
(右)手帳カバー



(左)渡邊先生
(右)平山先生



10月14日(金)、多目的ホールにて宮城興業(株)の方を講師に招き革細工教室を開催しました。

今まで経験したことのない、本革を加工し、自分だけのオリジナル作品をつくることができました。

ヨガ教室 1回目

健康ポイント対象事業 20P

日 時 11月22日(火)1回目
午前10時から11時
場 所 中部地区公民館 多目的ホール
講 師 ヨガインストラクター
鏡 実優先生
対 象 中部地区在住の方
参 加 費 無料
持 ち 物 マスク着用、飲み物
持っている方はヨガマット
申込締切 11月15日(火)



参加者募集

11月の予定

5日 公民館大掃除
雪おとし棒づくり
10日 第3回地域
づくり委員会
16日 はこべの会サロン
22日 ヨガ教室 1回目
28日 はこべの会
映画鑑賞 1回目
29日 はこべの会
映画鑑賞 2回目

11月の百歳体操

10日、17日、24日

お知らせ

11月29日(火)午前9時から11時まで、公民館内の電気設備点検による停電のため公民館の使用ができません。

・活動量計かざす君

・電話、FAX

など使用できなくなります。

ご迷惑をおかけいたしますが、よろしくお願いいたします。

はこべの会 サロン

11月のサロン

日 時 11月16日(水)
午前10時から
午前11時

会 費 無料

お茶とお菓子で会員の交流を!



『金森家』(3)「高山藩金森侯転封～余録1(江戸の貨幣事情)」

江戸時代三分の一過ぎた上山藩の土岐侯から金森侯に領主が替わった頃のことを俯瞰してみます。

土岐頼殷侯は^{よりたか}大坂城代になり、その後に金森頼吉侯が^{よりとぎ}入ってきます。その頃、幕藩体制はひとまず盤石になるとともに都市の貨幣経済が急速に進展しました。元禄期の井原西鶴(貞享5年1688酒田鎧屋描写)、松尾芭蕉(元禄2年1689山寺で俳句)、近松門左衛門ら後世に名を残す文人らの活躍は商家の羽振りのよさが主導したものです。その元禄期(1688～1704)に上山藩の城破却(元禄4年1691)、金森侯着任(元禄5年1692)、高山城破却(元禄8年1695)があり、上山の郷土にとって大きな謎が横たわっています。第五代将軍徳川綱吉と側用人柳沢吉保の時代です。

江戸時代前期100年の骨格として、商人の台頭に比して武士は徐々に窮乏を始める時代です。諸藩の武家、幕府の財政は基本的に年貢米からなり、豊凶は天候に左右されながらも貨幣経済にまきこまれ、商人に手数料を払って現金化しました。元禄期に向けて1600年代後半から材木商の紀伊国屋文左衛門、呉服・両替の三井、酒造・廻船・両替の鴻池、銅山経営で住友など財を成した豪商たちが登場しますが、鉱山の視点を入れます。鉱物資源の産出と貨幣の歴史です。

「和同開珎」が708年に日本で初めて造られましたが、豊臣秀吉が金・銀貨幣を造るまでの約600年間に日本で貨幣が造られることはなく、中国から輸入の宋銭、明の銅銭を使っていました。本州中央部に領土を持った武田信玄は「甲州金」を鑄造、豊臣秀吉は天正16年(1588)に諸国領土の鉱物資源によって「天正長大判」、^{あまの}「天正菱大判」を造りました。庶民に通用していたのはまだ明銭やびた銭でした。

天下統一ということは戦国諸国内の経済から幕府・諸藩をまたぐ貨幣の統一が必要ということになります。関ヶ原の戦いに勝利した徳川家康は、「貨幣制度」を統一し全国で流通する金・銀・銅貨を造りました。慶長6年(1601)に大きさ、重さ、金銀の含有率を揃えた大判、小判、一分金、丁銀、豆板銀の五種類の金銀貨

を発行、寛永13年(1636)三代家光が「錢座」を設置し、銅銭「寛永通寶」を造って初めて金貨・銀貨・銅銭による三貨制度を確立しました。よく知られているのは「慶長小判」、「寛永通寶」です。

貨幣制度統一を時系列に見ますと、徳川幕府は全国の都市、鉱山、森林資源など重要な箇所を直轄地(天領)化する施策を取りました。石見銀山は戦国期末期から採掘されて所領争奪がありましたが、幕府は慶長6年(1601)に接收し、「慶長丁銀」鑄造を果たしました。佐渡金山は戦国期から本格的に採掘されるようになり、慶長6年(1601)天領としました。但馬生野銀山も古く織田信長、豊臣秀吉、徳川家康らが直轄地とし銀を採掘しました。下野国足尾銅山は戦国期に発見され、慶長15年(1610)に幕府直轄鉱山として採掘が始まり最盛期には1200トンを生産し「寛永通寶」の資材となりました。伊予別子銅山は元禄4年(1691)に開坑、当初より住友家が経営、幕府は管理していませんでした。直轄地は幕府派遣の奉行・代官が支配しました。銀山は初めは奉行支配でしたが、寛文後期(1682頃)からは代官支配になりました。鉱山や山林などで特別な業務を行う代官所では詳しい地役人を採用しました。

つまり、江戸開府の頃から佐渡金山、石見銀山、足尾銅山採掘の地下資源により統一貨幣を流通させ、「統一貨幣誕生」(江戸三貨制度)を支えたのです。これらをベースに次回高山藩の鉱物資源を考えていきます。



寛永通寶



慶長小判

※参考文献：「金森家関係文集」⑧、ネット「日本の貨幣の歴史一造幣局」、「18世紀飛騨地域における鉱物資源開発の展開」(原田洋一郎)などを参照しました。